

「地域の魅力をみんなの力で次世代へ紡ぐ」

安川 潤 (31 歳) I ターン
(愛南町)



1 就農の動機・理由

管理栄養士として働く中で、地産地消や農業の有機化が当県はなかなか進んでいない状態を肌で感じていた。

非農家出身ではあるが、課題解決のために、自分にも何かできるのではないかと思い、県職員を退職して新規就農を決意した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和4年)	現在の経営 (令和6年)	将来の経営 (令和9年)
労働力	男1人(本人) 家族2人	男1人(本人) 家族2人	男1人(本人) 従業員1人 家族2人
経営耕地	畑 45a	水田 10a 畑 120a	水田 100a 畑 220a
経営内容	ナス 10a とうもろこし 50a 枝豆 5a じゃがいも等 40a	水稻 10a ナス 10a とうもろこし 55a 枝豆 5a にんにく等 50a	水稻 100a ナス 10a とうもろこし 100a 枝豆 10a にんにく等 100a

○主要農業機械

管理機	2台
畝立て機	2台
ハンマーモア	2台
動噴	1台
運搬車	1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県松山市

職歴 愛媛県(管理栄養士採用)

就農年月 令和4年4月

(2) 就農時の思い

将来、栽培した有機農産物(無農薬含む)を学校給食に納品し、子どもたちに食べてもらいたいという強い思いがあった。

しかし、栽培面での不安や、就農地である愛南町はIターンでの就農であったため、知人も少なく、思いだけが先行していたと思う。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

県の農業指導班を中心に、農家仲間からのアドバイスや文献(論文など)を参考にしながら栽培に取り組んでいる。

また、今はAIも使用できるレベルにまで成長しているため、データ蓄積や分析を行うことで、栽培や販売時の基本ベースとして使用している。

(2) 資金の準備

自己資金、新規就農総合支援事業(経営開始資金)を活用している。

農業機械を購入する際は、町の農林課へ活用できる補助金がないかを相談した。

(3) 農地・住宅の確保

農地の確保については、就農時は前職の先輩の実家の農地を紹介してもらった。

その後は、地域の人々と相談しながら規模拡大を進めており、主に、高齢化により増加している耕作放棄地を活用している。

(4) その他苦労したこと

農地が中山間地の棚田のため、石垣の管理や鳥獣害被害に手を焼くことが多く、現在も苦労している。

5 農業経営の特徴

現在は、いっしょに移住した両親と3人で約130aの農地を使い野菜を栽培している。

非農家出身のため、栽培ノウハウが乏しいが、年々の栽培データを蓄積することで、感覚的な技術だけでなく、客観的データによる技術の向上にも努めている。

6 これからの夢

今後は、同じ思いを持つ地域の人々とともに法人化を目指し、地域の誇りである石垣の棚田を守りながら、就農時に掲げた目標である学校給食への納品を実現していきたい。

7 成功したキーポイント

まだ収益ベースには乗せることができていないが、Iターンの自分を地域の人々が支えてくれたおかげで、今こうして農業ができている自分がある。

自分にできないことは周囲に頼り、できることを必死ですることが成功の鍵だと考えている。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は作物を育てるだけの仕事ではなく、地域と深く関わる仕事だと考えています。特に地方での就農は、地域の人や風土との調和が欠かせません。技術の習得はもちろん重要ですが、それ以上に地域の文化や人々とのつながりを築くことが最も大切だと思います。

Iターン就農だった僕も、最初はとても不安でしたが、困ったことがあるたびに地域の人に相談させてもらい、助けを求めることで道を開くことができました。地域の一員として受け入れてもらうことは、就農を成功させる上で欠かせない要素だと思うので、地道に地域との絆を深めていくことが大切だと思います。

○ 指導機関からのひとこと

安川さんは地域の方々と良好な関係を築いているだけでなく、地域全体を巻き込んだ活動も展開されています。

今後は、技術を高め、環境保全型農業での経営確立に期待しています。

執筆機関

南予地方局農業振興課地域農業育成室
愛南農業指導班
電話番号 0895-72-0149



地域の人たちと一緒に栽培したお米